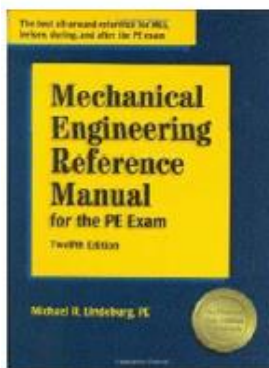


- 氏名：飯島晃良
- 会員番号：PEN0081
- 試験分野：Mechanical
- 試験日：2012年4月15日
- 参考書



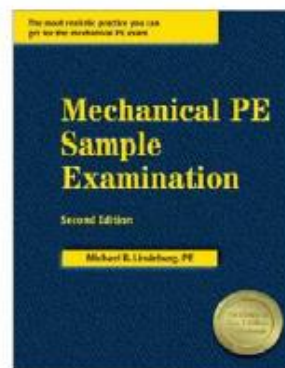
- [1] Mechanical Engineering Reference Manual for the PE Exam, 12th Edition, PPI
- [2] PE Mechanical: Thermal and Fluids Systems Sample Questions and Solutions, NCEES (午前、午後双方の問題を収録。午後の問題が「Mechanical Systems and Materials」, 「HVAC and Refrigeration」のタイプも出版されている)
- [3] Mechanical PE Sample Examination, 2nd Edition, PPI (午前、午後双方の問題を収録)
- [4] Mechanical Engineering PE Sample Exam, 2nd Edition, KAPLAN (午前、午後双方の問題を収録)



参考書 [1]



参考書 [2]



参考書 [3]



参考書 [4]

6. PE試験受験までの道のり

【受験動機：2000年頃】

大学在学当時、大学で学んでいることがどの程度身につけているのか、大学の成績だけでなく、より客観的なものさしで測りたいと考えておりました。そんな中、FE・PE試験及び技術士試験の存在を知り、受験を考えました。

【FE試験の受験】

大学4年の秋に、まずは技術士第一次試験（機械）に合格しました。その約1年後、大学院1年の時にFE試験に合格しました。

【実務経験とPE受験申し込み】

大学院修士課程修了後、自動車メーカーで自動車開発に従事しました。実務経験を積んでいる段階の

ため、『将来PE試験及び技術士第二次試験を受ける』と頭の隅に置いている程度で、試験に対する具体的な準備はしていませんでした（“将来の試験受験を意識したうえで実務経験を積む”という準備のみ）。

その後、自身が修了した大学に戻り、勤務することになりました。まずは、博士の学位取得が最優先であったため、大学に勤務をしながら研究論文を揃え、学位取得に全精力を注ぎました。学位取得時点で、PE試験、技術士第二次試験双方とも、必要な実務経験は満たしておりました。始めに、試験で具体的な実務経験を問われる（経験論文と口述試験があるため）技術士二次試験（機械）を2008年度に受験し、合格しました。2009年4月に技術士（機械部門）登録後、PE受験を考えましたが、仕事が忙しかったこと、PEは幅広く具体的な問題を解く必要があるため、勉強の期間が必要と思っているうちに、2年以上経過しました。このままではいつまで経ってもPE試験を受験できないと思い、2012年の春試験に受験申し込みをしました。この後にお示しますが、私立大学で多種多様かつ学内外からの仕事に忙殺され、計画的な勉強が全くできませんでした。

7. 試験対策

私の場合、お恥ずかしながら、計画的な勉強を出来ずにPE試験を受験することになりました。おそらく、ボーダーライン付近の点数での合格だったものと想像します。そのため、私の報告は、試験勉強がほとんどできないまま試験日が迫ってきてしまったかたに対して、多少の参考になればと思います。私自身、試験合格に至った理由を、以下のように考えております。

- [1] なんとか合格点に達すれば良いと割り切った勉強法
- [2] 自身がなくとも、とにかく試験を受ける

【勉強期間】

勉強期間は、3月末からの3週間程度でした。3月末の卒業式で卒業生を見送った後、本格的に勉強を開始しました。しかし、4月始めから、新入学、新学期が始まるため、あまり勉強時間を確保することができませんでした。幸いにも、普段、講義や研究指導のため、熱力学や内燃機関には触れているため、その分野の問題はあまり心配せずに済みました。

【勉強方法】

分の厚いMERM（参考書 [1]）を読むことは愚か、MERMの例題のみを解いていく事すら時間的に困難に感じました。そのため私の場合、異なる出版社から出されている「模擬試験問題」3冊（参考書[2]～[4]）を主に使用しました。つまり、模擬試験を3回分受けて、その内容を理解し、PE試験に挑むことにしました。分からない部分は、MERMを参照しながら解くことで、問題のレベルを理解し、単位換算の方法に慣れていきました。これを3冊分行い、解答例のみでは不明な点をMERMで理解しました。また、MERMで確認した個所に付箋を貼っておきました。

【試験当日】

上記の勉強で試験に挑みましたが、当然、まったく自信がなく、合格は非常に困難だと考えておりました。しかし、次回の試験受験のためにも、自信は無くとも、とにかく受験することにしました。

当日使用した資料は主にMERMです。まずは、何も参照せずに解けるような問題から解答していきました。

その後、MERMを参照しながら残りの問題を解いていきました。その際、正答の自信がある問題の数をチェックしておきました。午前の問題で6割程度、午後の問題で5割程度は正解しているといった感触でした。つまり、『運が良ければ合格ラインに達するのではないか』といった状況でした。

【結果は合格】

6月始めに、日本PE・FE試験協議会より合格通知が届きました。その後、合格証が届きました。

8. まとめ

私の場合、準備不足により、模擬問題3回分の演習しか出来ませんでした。本来の計画では、MERMを一通り演習した後で、最後に模擬問題を解答し、合格点を取れるかどうかを確認しようと思っておりました。しかし、最低限の演習を行い、とにかく試験に挑むことで、なんとか合格ラインを超えることが出来ました。ダメ元で受けてみるものだと思います。この体験記が、これからPE試験を受験されるかたの参考になれば幸いです。